



ICT 海外ボランティア会会報 No. 87

2019年8月1日(木)

URL: <https://ictov.jimdo.com> (2017年以降)

<http://www.ictov.jp> (2016年以前)

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿

千里の道も一歩から

当会顧問 加藤 隆氏

◆特別寄稿

徒然日記(5): シニア海外協力隊顛末記(4)

当会特別顧問 石井 孝氏

◆JICAの動き

JICA 海外協力隊 2019 年秋募集

事務局

◆国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業(タイほか)の募集

事務局

◆海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(11)

元 PLDT チーフオペレーティング・アドバイザー

元 NTT アメリカ社長

現(株)ハイホーCEO 鈴木 武人氏

◆海外グラフィティ

渋沢 秀雄と俳句

バートランド・ラッセルの幸福論

ネオ・ラッドライトは起こるのか?

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆海外便り

ノルウェー俳柳(俳句川柳)紀行(1)

元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之氏

◆第 40 回海外情報談話会模様

事務局

◆第 41 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

千里の道も一歩から

ー トンガ王国防災 ICT システム構築までの道のり ー

当会顧問 加藤 隆

当 ICT 海外ボランティア会は 2008 年、JICA シニア海外ボランティア（以下 SV）を経験した NTT の OB を軸としてスタートしました。私もその一人です。本会設立の主旨は NTT の OB に「現役時代に蓄積した技術と経験を基に、それらを欲しがっている開発途上国へ伝授しよう」とのことでした（技術には経営などのノウハウも含む）。ところが開始して驚きました。NTT の現役諸氏が多数この会への参加を希望しました。彼等は主に JICA 青年海外協力隊経験者で、この会の主旨に賛同し、いずれは SV を経験したいとのことでした。更に、NTT 以外の会社 OB からの入会希望者もあり、力強く活動展開しました。



当会活動の柱の一つに「海外で活動中の SV の支援」があります。忘れもしない 2010 年、SV としてトンガ政府のアドバイザーとして派遣中の鈴木弘道氏（元 NTT データ）より、「トンガは南大洋州の島国で、地質学的に見て、日本と同様に地震多発地帯にあり、津波などによる災害に見舞われ、毎年サイクロンにもさらされている。防災・減災への取り組みが国家開発課題の一つになっている。ICT を活用した防災・減災のためのシステムを構築したいので、その支援をお願いしたい」との要請がありました。トンガは約 170 の群島からなり、人口は約 11 万人の王国です。我が国皇室とも交流があり、小学校では日本のそろばんが必須科目になるなど親日的です。

その頃、日本の ODA がアンタイトに変更されたことなどから、日本の電気通信関連企業の海外進出が鈍った時期でもありました。それで情報通信国際交流会（IFIS）とタイアップして一案を作り、それを基に総務省幹部との意見交換を行いました。この案の骨子の一つとして、ODA の実施に当って日本企業は極力グループを組んで対応することとし、将来を見越して有為な若手を中心に進めることが望ましいとしました。総務省は当方の考えをよく受け入れて下され、話し合いは 2 時間でも足りない位でありました。

こうした経緯を経て、当会は早速本件に取り組むこととし、アジア APT（太平洋電気通信共同体、本部バンコク）の日本政府特別拠出金によるパイロットプロジェクトスキームに応募し、本件（提案名：E-disaster Communication Network in Rural Island Environment）が採用されました。当会は出来るだけ汎日本的になるよう、JTEC と BHN とタイアップしました。

第一段階として、2012 年トンガとの共同研究を実施しました。これは 1 年間、相互に行き来して、トンガの人材育成を含め、課題分析及び各種解決方法の検討することであり、私も若手に混じってトンガに参り、パイロットシステムの検討に加わりました。第二段階は翌年、パイロットシステムを構築することであり、これは JTEC の田村正人氏が中心となって日本無線の献身的な協力の基に実施され、このシステムの効用がトンガ側からも高く評価されました。

その後、トンガ政府から日本政府に対し無償資金協力要請書が提出され、多くの離島を含むトンガ国全土をカバーする運びとなり、機器の殆どは日本製で、エンジニアリングもわが国が実施し、今年7月に建設工事が着工され、来年8月に引き渡しの予定とのことです。多くの方々と機関のご理解とご尽力が結集し、まさに「千里の道も一歩から」と感慨深いものがあります。この間、JTECの活躍は見事でした。そしてこのシステムがいずれ何らかの形で、トンガのみならず太平洋諸国全域に普及することを願っております。

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

参考(事務局より): 無償資金協力(2018年6月21日贈与契約締結、総額28億3,700万円)

国名	トンガ王国
案件名	全国早期警報システム導入及び防災通信能力強化計画(The Project for Nationwide Early Warning System and Strengthening Disaster Communications)
実施予定期間	24ヵ月(詳細設計・入札期間含む)
実施機関	気象・エネルギー・情報・災害管理・環境・気候変動・通信省
対象地域・施設	トンガ王国全土
具体的事業内容 (予定)	<p>(1) 施設整備/機材調達 【施設】 TBC放送局舎(1,512 m²)、中波送信機建屋(74 m²) 【機材】 緊急無線システム(無線局、無線中継局、無線端末等)、早期音響警報システム(無線親局、サイレン、遠隔起動型受信機等)、中波ラジオ放送システム(中波送信システム、放送用機材、オンエアスタジオ、アーカイブシステム等)、保守用測定器・工具、交換部品等</p> <p>(2) コンサルティング・サービス 詳細設計、入札補助、施工・調達監理、(ソフトコンポーネントとして)機材の運転・維持管理研修、コミュニティの危機管理体制強化のための啓発活動・避難訓練</p>

出所: https://www.jica.go.jp/press/2018/20180621_01.html

特別寄稿

当会特別顧問の石井様から、「呆け防止のためにブログを開始した」との連絡があり、ご本人のご了解を得て、いくつかの日記を下記のとおり転載いたします。

<https://blog.goo.ne.jp/iwatukiishiikoh>

徒然日記(5)：シニア海外協力隊顛末記(4)

当会特別顧問 石井 孝

5-4 民間企業とのジョイント

DVT (Dual Vocational Training)

タイの教育省は、On the Job Training の一種で、民間企業に教育訓練を委託する DVT (Dual Vocational Training) と称する職業訓練システムの開発をすすめている。これに関して、日本企業ではトヨタ、ホンダが積極的な協力を行っている。トヨタの場合は、系列ディーラーのために作った教育訓練センターに職業高専生を受入れ、板金、塗装などの実習訓練を無償で引き受けている。



現在、この訓練システムは開発途上にあり、一部の熱心な学校と、関心を持つ企業がお互いに話し合っケースバイケースで試行的に実施しているのが実情である。政府も実施企業に対し、税制面等で優遇するなど云ったことも検討しているようであるが、未だ実施には至っていない。筆者等もこのシステムを積極的に利用することにした。校長は極めて積極的に動いてくれ、タイ第一の民間電話会社 Telecom ASIA 社と基本的合意を取り付けてくれた。同社は元教育省次官を教育担当顧問に迎えるなど、教育訓練に熱心で、訓練用設備、教官等訓練環境は非常に良く整備されている。教育担当の責任者に会い色々話をしてみると、技術的経験が豊かで、技術革新の動向についても的確に把握しており、こちらの要望も積極的に受け入れてくれた。

実際に実行してみると、経費負担の問題や委託先における生徒の管理の問題など検討し解決すべき事項も多いが、メリットも大いにあることがお互いに実感出来た。学校側から見たメリットと企業側から見たメリットを整理すると凡そ次のようになる。

学校側から見たメリット：

- A. 企業の教育訓練施設には技術的に最先端の実働機器が設置されているので、自ずと最新の生きた技術に触れることが出来る。また、教官陣に優秀な技術者を当てているので、先の輪講でうまく行かなかった TCP/IP の授業なども、企業側の教官による講義形式のコース開設で解決出来る。
- B. 企業内研修の仕組みの下で生徒は教育訓練を受けるので、企業内における躰や生活ルールなどを強いられるため、卒業前に世の中の空気のある程度勉強出来る。
- C. 生徒を企業に売り込むチャンスになる。

企業側のメリット：

- A. 企業イメージの PR と社会貢献が出来る。
- B. 優秀な生徒を選び取りで就職勧誘出来る。

実績は未だ十分とは云えぬが、新しい生きた技術に接した時の生徒の目の輝きを目の当たりにしたり、就職内定を得た生徒の喜ぶ様子などを見ると、つくづく良かったな、と思ったものである。

現在、在タイ日本企業の殆どは不況の所為もあってか、DVT に対し極めて消極的である。このような活動を上手に行うと、タイの若者達の心に日本と日本企業に対する自然な親近感を植え付け、社会貢献と堅実なビジネスの拡大に繋がって行くであろう。日本政府としても、技術援助の一環としてサポート出来るよう工夫してみる価値が十分あるのではないかと思う。

5-5 英語教育

ネイティブスピーカー

この国で専門学校ぐらいのレベルになると、英語が殆ど通じ無い。日本の状況を考えるとあまり威張った事は言えないが、英語に不自由しない近隣諸国フィリピン、シンガポール、マレーシアなどと伍して行くためには、タイにとって英語教育は重要な課題である。

まずは生徒に英語に対する興味を持たせようと云うことになり、ネイティブスピーカーを臨時教師として雇ってみることにした。思惑通り、生徒は見慣れぬ外国人の陽気な授業に大変興味を覚えたようであった。しかしながらタイの決まりでは、臨時教官の、特に昼間の手当ては安く、外国人教官は残念ながら長続き出来なかった。

何とか自前で改善を図ることにし、当校随一の英語力を持つ校長秘書の Chollana さんに英語教官を兼務して貰うことにした。彼女は快く引き受けてくれ、自分の経験を基に、演習の多いケンブリッジ大学出版のテキストを利用した授業を行うなど色々工夫を重ねてくれた。毎日、生徒の解答を自宅に持ち帰りチェックするなど授業も極めて精力的であった。この甲斐あってか、半年も過ぎる頃になると、生徒の方も熱が入りだし、教官室にドリルノートを取りに来ては、筆者らに英語で挨拶を行ったり、簡単な質問をするようになって来た。

また、このようこともあった。卒業年次の生徒が就職試験を受けたところ、技術問題が全て英語で出題された。この生徒は英語が分からないため、全く解答が出来なかったのである。このような事件も手伝い、校内全体に英語の必要性が浸透して来た。

彼女の努力も報われ、先の展望も開けて来たかにみえた。しかし、事情は後で述べるが、Chollana さんはこれから間もなくして米国留学に旅立つことになり、後が続かなくなってしまったのである。

爪痕を残す

あれこれやってみるのであるが、周りの状況が色々と変化する中で、これを根付かせ、成長させることは極めて難しい。やった事全てが無意味になるとも思えないが、何か手を打っておかないと、瞬く間に全てが風化してしまうのではないか、という思いに駆られる。何とかしつかりした爪痕を残したいと思った。

よろず相談

よろず相談のような形で皆の中に溶け込むやり方は、吾ながら旨くいった。授業に関する話を切っ掛けに、学校内における諸々の事情からタイ社会の風習などあらゆる情報が入って来た。

また、こうした話の中から新しい仕事に繋がるヒントも得られた。やはり常に現場に生のパイプを持つことは何をやるにも大切なことなのである。

6 校長の栄転

Mangkorn 校長との仕事は、人種の違い、言葉の壁、風習の違いなどを超え、実に楽しいものであった。初めての外国生活で、この様なやる気のある、何時も青年の志を失わない人にめぐり合った幸運を神に感謝する思いであった。

彼がもし教育省の然るべきポストへ栄転することが出来れば、そのポストを活用して、今までこの学校でやって来た経験を生かし、その成果を全国的に展開してくれるであろう。

ある時期から上位部局に当る職業教育局の幹部が出席する会議や会合には、出きる限り出席し、当校で実施している施策とそれに対する校長の熱心な活動と成果について紹介した。職業教育局長には来校してもらい現場をみてもらうこともした。

そうこうしている中、ある会合で、校長の異動先として職業教育局産業教育部長かどうか、との話が出た。これは全国の職業高専を統括するポストである、正に願ったり叶ったりである。早速、それとなく校長に決意を促すと、これまでの人事の慣例ではいきなりは無理であると、素っ気無いものであった。

しかしながら、予定外のスピードで事は運び、筆者の任期数か月を残す時点で念願のポストに校長の栄転が叶った。

Mangkorn 校長とは二年間任期いっぱい一緒のつもりでやって来て、何か淋しい気もしないでは無かったが、彼に対し多少の報答が出来た気持ちと、これまでの仕事が何とか先に繋がった思いで爽快な気分になった。校長も大いに喜んでくれ、内示を受けた時は、真っ先に知らせてくれた。

新しいポストにおける彼の仕事振りは期待した通りであった。新技術を取り入れたカリキュラムの改善、DVTの全国展開、若手教官の育成など、就任早々、矢継ぎ早に手を打ち出した。この間、筆者もよく呼び出され、手伝いをさせられた。

7 一段落

新しい校長の Warin 氏はタイ人特有の人の良さは持っているが、Mangkorn 氏に比べると歳も上で、極めて保守的な人であった。色々手掛けて来た施策についてブレーキを掛けるような事はしなかったものの、成るべくなら新しいことには一切手を付けないというスタンスである。

教職員に対しても、ポストや身分に従った接し方を取り、教官会議も二様になった。ある日、教官会議というのに Chollana さんが出席しないので事情を聞いてみると、正規教官と臨時教官を分けて別々に会議を行うようになり、今日は正規教官会議なので出席しないと言うのである。正規教官と臨時教官の 2 種類がある事は知っていたが、Chollana さんが臨時教官であるとは、実はその時まで気がつかなかった。

前の Mangkorn 氏は能力とやる気を至上主義とする人で、正規、臨時に関係なく、出来る人を重用していた。このため、臨時教官組でも正規教官並以上に活躍の場を与えられていた人達はショックを受け、大分落ち込む者も出た。Chollana さんもその中の一人であった。

新校長は彼女を秘書からはずし、兼担していた英語教官一本にしてしまった。かなりのショックであったようで暫く塞ぎ込む日が続いたが、それから間もなくしてアメリカ留学を決心した。

新校長の筆者への対応はけっして粗末にすると云う訳ではないが、謂わば神棚に飾られたような形になった。おかげで任期も残り少なくなって来ていたこともあり、サバサバとした気持ちで仕事に区切りをつけ、一段落する事が出来た。

思い残すことは色々あったが、2 年間の任期を終え帰国すると、平成 13 年度のシニア海外ボランティア代表として、(平成)天皇皇后両陛下に活動報告をする機会を与えられた。これはまさに僥倖であった。吹上御所で両陛下から心に響くねぎらいのお言葉を頂き、心にポッカリ空いた風穴もすっかり修復され、自分なりに精一杯であった蘇活の方も一段落した。(了)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/特別寄稿/>

JICAの動き

JICA 海外協力隊 2019 年秋募集

事務局

JICA 海外協力隊 2019 年秋募集の募集期間は 2019 年 8 月～10 月に予定されています。奮ってチャレンジしていただければ幸いです。また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、参加されることをお勧めいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/> (8 月 1 日現在、未掲載)

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/>

国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

国際交流基金は、日本語パートナーズ派遣事業について 8 月 9 日(金)から募集開始予定です。海外と日本の架け橋になりたい方、[海外で日常生活・協力活動してみたい方\(旅行・出張ではなく\)](#)など、奮ってご応募いただければ幸いです。

なお、8 月 17 日(土)～9 月 14 日(土)に全国各地で募集説明会が開催されます。

<https://jfac.jp/partners/apply/> <https://jfac.jp/partners/event/>

タイ	募集人数：50 名程度	派遣予定期間：2020 年 5 月～2020 年 12 月
ミャンマー	募集人数：5 名	派遣予定期間：2020 年 5 月～2020 年 12 月
インドネシア	募集人数：60 名程度	派遣予定期間：2020 年 7 月～2021 年 1 月
ラオス	募集人数：3 名	派遣予定期間：2020 年 8 月～2020 年 12 月

1. 趣旨

幅広い世代の人材をアジアの中等・高等教育機関へ派遣し、現地日本語教師と日本語学習者のパートナーとして、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、アジアの日本語教育を支援する。同時に、日本語パートナーズ自身も現地の言語や文化についての学びを深め、アジアと日本の架け橋となることを目標とする。

2. 活動内容

- (1) 現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポート
- (2) 日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちと交流
- (3) 現地の言葉や文化を習得、等

3. 待遇

滞在費(月額 10 万円～14 万円程度)、往復航空券、国内交通費、住居等が提供される。

4. 応募要件

- (1) 満 20 歳から満 69 歳で日本国籍を有する日本語母語話者の方
- (2) 日常英会話ができる方(英語で最低限の意思疎通が図れる程度)
- (3) 派遣前研修(約 1 か月間)に全日参加できる方
- (4) 心身ともに健康な方、等

(注) [日本語を教えた経験がなくても良い](#)。特技のある方、[人生のキャリアを積んだ方](#)、アジアとの交流に熱意を持った方の応募が期待されている。

海外実践マネジメント

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(11) — 『NTT を巡るグローバル環境の変化』日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、 そして NTT のグローバル化へ—

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー
元 NTT アメリカ社長
現 株式会社ハイホー CEO
鈴木 武人



6.1 債務のリストラクチャリング

PLDT はフィリピンで唯一、NYSE(NY 証券取引所)に上場している会社です。買収の直後から大株主、社債を保持している金融機関や年金基金等に対して IR (Investors Relation)を行って株価の維持向上を行う必要がありました。IR では Smart を買収した事で、PLDT グループの経営の改善、即ち如何に合理化を進めるか、利益を向上していくかを具体的に説明する必要がありました。質疑は厳しいもので、職員数の合理化計画や利益率等時期と数字で答える必要があります。IR では香港・アムステルダム・ロンドン・NY 等を中心にアレンジにより金融機関を回りますが、1日2カ国、世界一周5日のペースで年1~2回、なかなかハードなものでした。



いずれにせよ、PLDT には種々のリストラが必要でした。Piltel の切離しを PLDT 買収の条件としていた NTT の意図に反して、現地側の政財界との了解事項で有った事からこれを PLDT グループに抱えざるを得なかった訳ですが、NTT からの信頼を維持する上で、まずは Piltel 等の不良資産、またこれを構成した債務の整理が最初の課題でした。

Piltel と当初の固定網の敷設義務は無いとも思われていたようですが、政権との摩擦もあったそうで、公正を期すると敷設義務が課され、またこれに関する査察が特に厳しく、設備展開を急ぐ必要があった様です。日本商社(複数)によるターンキー契約でしたが、現場を見れば既に引取りが終了したにも関わらず、殆ど稼動して居らず、支払いもしていない状況となっていました。最大の貸し手になってしまった日本商社も、バブル崩壊直後で整理すべき不良資産が山積み状態でした。NTT 法人営業本部で流通サービス営業部長をしていた関係や、米国の商工会議所で商社幹部のキーパソンとも顔見知りであった関係もあり、その経営上不良資産をそのままにしてはおけないとの認識を共有した上で、同社の債権を Piltel の株に切替え、さらに PLDT も含めて別途のオプションを加える案による膝詰めの交渉を行う事が出来ました。いずれも必死でしたから、率直に議論を進めることが出来、合意に至ることが出来ました。



PLDT 自体の債務としては多くの通信設備を独シーメンス社から調達していた関係で KFW (ドイツ輸銀) に最大の債務が有りました。当初、この借り換えは順調に進むもの

と書いていたが、日本資本が入った事で、ドイツからの今後の調達が見込めなくなるとの考え方も有ったのかもしれませんが、KFW が借り換えに難色を示しました。

財務担当アドバイザーの Cris. Young 氏の KFW との交渉の末、借り換えの条件として日本政府ないし NTT の債務保証があればこれを認めると言う所まで妥協を得られました。しかしながら、持株傘下で発足した NTT Com と幾度か交渉を重ねましたが、債務保証はした事もないし今後もする事も無いとして、頑としてこれに応じてくれませんでした。NTT ファイナンスにも相談したところ、NTT が債務保証に応じた事実は有ると教えてもらいましたが、其処からの融資は規模が大き過ぎるとのことで頂けませんでした。この



様子を見ていた NTT Com 藤田副社長から JBIC を紹介頂きました。NTT の一部、特に銀行出身の方は NTT が JBIC に資金面で依頼するなんて情けない、そんな事は有り得ないとの意見もありましたが、我々にとっては最後の望みとなっていました。JBIC は既に運用実績が有り、利益もあげている Smart/PLDT に好意的でしたが、当然、JBIC は出資元の何等かの保証を求めます。しかしながら、NTT は KFW から求められた時と同じく、頑として保証を拒否しました。何度かの JBIC との打合せの後、『NTT は PLDT を戦略的パートナーとして長期的に出資、経営参加している』の趣旨で保証の代わりと認め

ると言う所まで妥協してもらい、NTT にも『事実に基づいた記述だけだ』と安心してもらって、文書を差し入れて資金提供(100 億円)を得る事が出来ました。KFW に対しては同じ権能を有する JBIC (輸銀) は日本政府であり、ここからのコミットを得たとの KFW の認識を得て、借り換えに応じて貰う事が出来ました。この状況でデフォルトの危機から脱し、IR を実施すれば、どん底の株価からの回復と、更なる債券の買い替えを促せる、これで財務の問題は解決すると思っていました。

マニラから東京泊で NY へ向かう IR スケジュールで、たまたま東京の自宅に居たとき(2001 年 9 月 11 日)、アメリカ同時多発テロ事件をテレビで見ることになりました。すぐマニラから連絡があり、NY での IR は延期と知らされました。面談すべき多くの方々が事件に巻き込まれていること、また市場も当分閉鎖状態で中断せざるを得ない状況で、直ぐにマニラに戻れとの事でした。あとから教えられたのですが、金融界の雑誌には『NYSE に上場している会社の中で、911 で最も影響を受けた会社は PLDT だ』との記事も出たそうで、2 重の焦燥を味わいました。しかしながら、再度、財務担当 Cris. Young 氏の才覚でオランダの ABM アムロ銀行との交渉で、短期融資でデフォルトの危機を乗り切ることが出来ました。(次号に続く)



<事務局注> ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外実践マネジメント/>

渋沢 秀雄と俳句

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智



財務省は、この度2024年度上半期に日本銀行券を一新すると発表した。まず、千円の表の図柄は、北里柴三郎、五千円は、津田梅子、一万円は渋沢栄一である。20年ぶりの刷新である。うち、今すでに出版などで一番動きがあるのは、渋沢栄一であろう。財務省は、「明治以降の文化人から選ぶ」としているが、果たして渋沢栄一が文化人と言えるかどうかの疑問は残る。渋沢は日本の資本主義の父と言える「こてこての実業家」ではあり、パリ万博の視察など国際派には違いないが、文化的業績となると何があるかと首をかしげたくなる。

渋沢栄一の孫敬三は、渋沢一族の中では例外的な文武両道で、日銀総裁、大蔵大臣、国際電電の社長などを歴任したが、同時に、国立民族学博物館の創設につながる日本の民俗学の草分け的な存在の一人でもあった。さて、今の今まで、文化の香りのする人物はこの敬三だけだと思っていたら、思いがけず他の文化人を“発見”した。それが、栄一の四男渋沢秀雄である。東京帝国大学卒業後、実業家としては、東宝取締役会長、後樂園スタジアム監査役、東映監査役を歴任したが、戦後は一転、風流三昧に身を投じ、随筆、俳句、油絵、三味線、長唄、小唄などを大いに嗜んだ。

私が気に入った句を挙げると次のようなものがある。

*左右より薔薇の垣きて薔薇の門

拙宅も、垣根が11種類の大輪の薔薇に囲まれていて、ちょうど角地なので道行く人が、それぞれの言葉で薔薇を愛でてゆく。この句から情景がありありと浮かんで来る。

*児がひとり手にうけてをり花吹雪

杭州西湖に遊んだ時の句で、私も中国の上海、蘇州、無錫の旅を思い出す句だ。

*秋刀魚焼くにはいの中に帰り着く

*片耳のすこしほてりし火鉢かな

*雪の夜やゆるりと打ちし置時計

この三句はもはや説明の必要がないほど、日常のさりげない光景を平易な言葉で綴ったもので富豪なのに決して庶民感覚を失わなかったと想像できる。渋沢栄一が徹底した仕事人間、長男の篤二が真反対の風流人、そのミックスが孫の敬三とこの四男・秀雄で、ヨーロッパのビジネスマンに多く見られる。

最近、日本の経営者の経営力が落ちたと言われ、その原因がリベラルアーツの欠如だと。リベラルアーツを極く簡単に言うと、一般より高い教養、或は芸術の素養と言い換えても良い。経営判断というものが、単なる経営数字だけで測られるものではなく、今まで遭遇したことのない事象だと、決断できなかつたり、判断を誤ってしまうのだ。よく言われる「最後は経営者の勘」で、この勘とは、とりもなおさず「リベラルアーツ」によって養われると言われる。(了)

バートランド・ラッセルの幸福論

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智

「100分 de 名著」というNHKEテレの特集番組がある。古今東西の名著を取り上げ毎週25分全4回、合計100分で作品の背景やキーワードを分かりやすく解説している。少し前にラッセルの幸福論を取り上げていた。

バートランド・ラッセル、英国の名門貴族出身で、ノーベル文学賞を受賞した「知の巨人」である。数学者、論理学者、哲学者、教育者、平和運動家でもある。58歳で幸福論を書いているが、世界の三大幸福論と言え、アラン、ヒルティ、それとラッセルのそれである。若いころヒルティの幸福論を読んだが、敬虔なプロテスタントであるヒルティはその信仰に基づいており、一般の日本人にはなじみが薄かった。

我々の年齢になると、必ずしも、毎日仕事に追われるという人は数少ないと思われるので、年金生活或は悠々自適的生活を主体とするグループをターゲットにした方がよさそうである。まず、①趣味を持つ。ラッセルはスポーツ観戦、観劇、ゴルフである。このあたりはおよそ日本人にも共通であろう。決してだいそれた趣味を言っていない。現在はテレビで、しかも世界同時のライブが見れる。例えばピョンチャンオリンピック。フィギュアスケートの羽生選手の演技には皆しびれた。観劇、これは自身妻に同行して歌舞伎、ミュージカル、京劇、芝居など広範のものを楽しんでいる。但しである、約8割が女性である。日本の文化は女性が支えている。ゴルフは自分では最近はしないが、同期会などこれを織り込んでいる場合が多い。②社会とのつながりを持つ。先輩などに聞くと社会貢献活動にいそしんでいるケースをよく聞く。

最近読んだ記事で、面白いのがあった。人生「必要最低限のお金と友達、これで十分だ。このハードルを上げると人間苦しくなる。自分は京都大学を出て大企業に就職した。だがちっとも面白くなかった。親の言いつけ通りに生きてきて、借り物の人生だった。本物の人生は結局、必要最低限のお金と友達だ。そして好きなことをする」というもの。

③退屈を楽しむ。退屈を味わう。時間は十分すぎるほどある。要はこれをどう感じるかだ。自分の家から遠く離れて地中海クルーズや南極探検旅行に行かなくてもいい。ラッセル曰く、マルクスは大英博物館に一日中こもって資本論を書いた。哲学者カントは、生涯自分の生まれたケーニヒスベルクから一步も出なかった。ギリシャの哲学者ソクラテスは悪妻クサンチッペと静かに暮らしたに違いないと結んでいる。④宇宙と比べて悩みを相対化する。いくら年齢を重ねても悩みは尽きるものではない。宇宙的な視点で見ると自分の悩みなどちっぽけなものであると。最近のベストセラーで小野雅裕氏の「宇宙に命はあるのか」というものがある。「宇宙は果てしなく広い。それに比べて人類は限りなく小さい。確かに人類は太陽系の八つの惑星すべてに探索機を送り込んだ。しかし、銀河系にある惑星の数は約一千億個と言われている。人類はその一千億個の八つしか知らないのだ。たまには、スマホをポケットにしまい、夜空を見上げて欲しい」。時々自分も客先に行くのに満員電車に乗ることがある。いたるところでスマホをいじってゲームを楽しんでいる。否一見楽しんでいるように見えるが、果たして「愉しくない職場に着くまでのほんの息抜き」のように見えて仕方がない。

ラッセルの幸福論を我々向けに直すとおそらく次の一言になるのではないだろうか。「一番大切なことは、日々の生活で極力外界の事物に注意を向け、社会とのつながりを保ち続けることだ」と。(完)

ネオ・ラッドライトは起こるのか？

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智

病院での待ち時間で、「ピペット」という臨床検査技師の団体が発行している季刊誌を手にした。羽生永世7冠のインタビューが出ていたが、将棋の棋士とAIとの対決は、藤井五段が天才棋士として彗星のごとく現れたのと時期を同じくして、昨今ホットな話題の一つだ。

一部のプロを除いて、アマチュアにとってAIに負けたとしても将棋はあくまで趣味であり生活そのものを脅かすものではないが、問題は職業がAIにとってかわられると事は重大である。文中「あるシンクタンクの報告では、医師や弁護士といった高度専門職のみならず私たち臨床検査技師も人工知能によって職が奪われる職業の一つにあげられたりしています」と。

例えば、医師は、カルテをビッグデータ化し整理すれば、ロボットが医師の代わりに診察できるだろうし、弁護士の場合、過去の判例を分析すれば、ある定型化した判決に結び付けられる。こうなると裁判官も失業か？

1930年代、資本主義と機械文明を批判したチャップリンの「モダン・タイムス」という映画で人間が歯車と化した様子を描いている。現代でも、例えばヘッジファンドのファンドマネージャーが売りと買いの数字的な枠を設け、コンピューターに覚えこませて取引を実行している。投資家の人間的な判断などもはや必要がないのかもしれない。

かつて、産業革命で機械が人間にとって代わるのを恐れ、人々が機械の打ちこわしをした「ラッドライト運動」が起こったが、AIやIoTの進化と台頭によって個人の雇用機会が奪われるのを警戒し、それらの開発を阻止し、利用を抑えようという考え方も出てきている。このネオ・ラッドライトともいうべき現象が本当に起こるのであるか？

翻って、経営や経済予測はどうだろうか？社長室にコンピューターが置いてあり、経営のソフトが組み込まれていれば、社長など要らなくなるのか？経済予測はどうか？様々な経済のファクターを予測ソフトに組み込めば、経済企画庁は廃止か？

将棋に話を戻すと、文芸春秋昭和三十四年六月号に小林秀雄が「常識」というタイトルで将棋の事をあげ、アメリカの作家エドガー・ポーの時代の常識では、将棋の世界で「人口頭脳」はまだ人間に負けると結論づけてはいるが、自分の考えでは、将来は分からぬという意味の文章を書いている。

小林秀雄の予測は見事に当たっている。まず、2016年、IBMのコンピューターがチェスの世界チャンピオンに勝ち、同じくグーグルの「アルファ碁」が韓国のチャンプを一蹴。さらには、日本の将棋でも第一期電王戦で「ponanza」が山崎八段に2連勝している。

それでは、人間に救いようがないのか？どうやら、直感、大局観、五感に基づく判断などは確かにまだ勝っているようだ。俗にKKD（経験、勘、度胸）と言われるうち、勘と度胸は優れていると思う。人口知能は過去志向であるが、夢とか未来志向は人間的な要素かもしれない。ネオ・ラッドライトは、わずかな希望ではあるが、避けられるかもしれない。(完)

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外グラフィティ/>

ノルウェー俳柳(俳句川柳)紀行(1) NEW

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

爺婆の旅の原点忘れまじ
成田へのアクセス変えて遠回り
旅立ちはラウンジカレーで腹いっぱい



わが家から成田空港第2ターミナルまでは、北総線でまっすぐ行けば1時間以内で着く。今回は例外的に船橋経由 JR で向う。時間は倍近くかかったが理由は海外傷害保険の付保のため。恒例となった空港サクラ・ラウンジでのカレーライスとワインで腹いっぱい、これで「さあ行くぞ」と外遊気分が高揚する。それでも「旅は修行」の気概を確認、何があっても自己責任、気を引き締めての搭乗となる。

最後尾ケツ振りダンス寝苦しき
カタール機も一帯一路を跨ぐかな
長旅や異次元突入衝撃波

機内座席は例によって最後尾、知る人ぞ知る横になろうと空席探しに他の乗客がやって来る。でも乱気流で振れを大きく感じる。最近のフライトは中国北部を横断するコースに定着してきた。北京上空からゴビ砂漠へと中国を跨ぎ、キルギス→ウズベキスタン(サマルカンド)→トルクメニスタン(アシャガバット)と飛び南下、イラン(シラズ)辺りを経てドーハを目指す。まさにシルクロード「一帯一路」の空路である。むしろノスタルジア(nostalgia)を求めて陸路を流離ってみたい気がする。約12時間に及ぶ夜間飛行はハードだが、これも異界探索へのイニシエーション(initiation)と今では達観している。帰路も本コースを逆飛びする。サウジアラビアとの断交以降、カタールはイランと親密になり飛行ルートが変わる。

ラマダンやリカー無く悲しラウンジに
トランジット異人に会おうドーハの縁

ドーハ空港のラウンジでワインでも飲んでオスロ行きフライトに備えようと思ったら、ラマダン中はアルコール類のサービスは一切無し。仕方なく軽食をつまんでいると隣りのテーブルにいた男から声が掛かった。私に向かって「日本人の方ですか」、「ええ、そうです」。彼は40代の日本人独身男性、長野で耐震建築のコンサルタントをしていると言う。モナコグランプリを観てきた帰りで、フランス国内の交通ストのためやっとの思いでドーハまで来た由。私達の出発の1時間位前の便で逆に日本へ帰るところだった。「自動車レースにはよく行かれるのですか」と問えば、年に一度モナコだけ、それもレース場の作業手伝いに行くそう。何て奇特的な趣味を持つ奴だろうと思っていたら、モナコでは趣味同類の「デューク更家」とはよく観に行っていたと言う。益々変な奴、サライエという男のことは初めて聞く。そしたら傍らの家内は「健康法の先生とかでテレビに出ている人でしょう」と話をつなぐ。雑学ペース(trivia pace)の話のお陰でトランジットタイムがあっという間に過ぎた。私の銜学ペース(pedantic pace)の話よりそっちの方が

面白そうだ。



ドーハ・ハマダ空港 空港内連絡電車 搭乗機へバス移動 砂漠にカタールの街

オスロ物価老いの稼ぎじゃ追い付けぬ

甘味料肥満抑止の高値かな

列をなす庶民市場の鳥サンド

第1句は五七五頭韻句。ノルウェーは物価高の国として世界のトップクラスにある。特にオスロやベルゲンなど大都市のホテルは驚愕の宿泊代が提示され、安くても日本の2倍、さらにイベント等と重なると軒並み高騰する。ホテルだけではない、レストランや飲食店、街の商店も同様である。一般食料品も高く、清涼飲料(スプライトやコーラの最小ボトル)が500円位、暑いのでアイスクリーム類を求めると350~450円、コーヒー1杯が500円強、ビール類は販売所によって価格差有り、1缶400円(330ml)~500円(500ml)位で日本と大差ない(日本の酒税が高すぎる)。でもホテルやバーで飲むと1200円((中瓶)~1500円(大瓶)となる。果物類は輸入ものが多くオレンジ1kg(6個)で550円と高めだが、バナナは大型3本200円でまあまあか。オランダから輸入のイチゴ・パック(600円)が美味そうに並ぶ。野菜・果物類は殆どが量り売りで自分の欲しいだけ袋に入れてレジへ。パンやケーキ類もなべて日本より3~5割増しになる。飲料水は水道から直接飲んでも問題なし、されどボトル(2L入り)をスーパーで買うと300円位する。但し‘Natural’と書いてあっても全てガス入り水である。ファーストフードのビッグマックはいろいろな具をトッピングして約850円、小型ピザ一人前で330円だが温めて貰える。

昼飯どきにオスロのマートハーレン食品市場を訪れると列をなしている店がある。前の客に「オスロは物価が高いね」とつつい愚痴をこぼすと、「いや、この店は安くて美味しいですよ」と言われる。彼は大学4年生、「来年は卒業だね」と言うと「マスターへ進むつもり。我々のような学生でも常連の店、ここのチキン・サンドイッチは最高だよ」。順番が来て彼と同じものを注文、目の前で手さばきよく作ってくれる。鶏肉を微細にほぐし、ニンニクとタマネギの千切りとまぶして炒めた具をたっぷり、生キャベツとマヨネーズを大きな丸いパンに挟んだサンドイッチだった。確かに絶妙な味、1個1400円だが高いとは思えない美味さだ。



オスロ空港着陸態勢 ガーデモエン空港駅 オスロ中央駅通路 オスロ市街

ついでに公衆便所は有料で大小にかかわらず一回Nok10、また駅や港のロッカールームはNok50要る。ノルウェー鉄道(NSB)はしっかり利用料を徴収する。勿論、車内トイレは無料だがローカル線の車両によっては今でも線路に直接落としている。ともあれ諸物価高めのノルウェー、現役ならともかく年金族のオレには、ちょっと暮らし難い国で

ある。第1句「古い」は「オイ(俺)」に掛ける。なぜ物価高になるのか。消費課税の問題なのだが、それも特に甘味料を多用する清涼飲料だとか甘菓子類に過度に集中する。街にはスポーティな人々が躍動している一方、肥満な人も大勢いる。肥満は万病のもと、多額の医療費に繋がる。国民の医療費負担ゼロを目指す国家財政としては、福利厚生観点から甘味料への課税に比重をかけ歳費削減を図ろうとしているのではないのか。

30℃汗かき巡るオスロ街

眠り無き白夜のオスロ活気 おういつ 横溢

北緯 60 度のノルウェー・オスロにきて、まだ 5 月末だというのに暑い夏が待ち受けていようとは。到着初日、一旦中央駅直近のホテルにチェックインして街歩きに出掛ける。大聖堂からシティホールへ、目抜き通りは大勢の人々で賑やかだ。市庁舎西隣の広場、木陰のベンチで一休みしようと先客の若者に同席の許しを請う。松葉づえの彼は愛想よく迎えてくれた。聞けば 5 月中頃オスロ北方のスキー場で転倒して膝を痛めたという。続けて彼曰くには、このところ雨が降らず晴天続き、しかも気温が高い。全く異常な状態で悪影響が出なければと嘆く。この若者、実は結婚していてリハビリがてら一人で街中へ散歩に来たそうだ。5 月には日本の渡部暁斗がトロンハイムとリレハンメルで 2 回スキー複合競技に出場している。そのことを尋ねたら渡部の名前すら知らない。5 位と 2 位の戦果では地元でもあまり注目されていなかったのであろう。それでも彼は日本のことは覚えていて一度冬の北海道に行って滑ってみたいという。



ノルウェー国会議事堂 ライラック 市庁舎正面 市庁舎内ムンクの間

トラムに乗って郊外のヴィーゲラン公園(別号フログネル公園)に行く。此処にはいろんな人体の彫刻があり、その数 650 体以上になるという。最奥にシンボルのモノリッテン(高さ 17m の花崗岩の塔)には 121 体の人間が刻まれている。人造湖に掛かる橋上には有名な「怒りん坊」の像がある。怒った男児の彫像だがユーモアがあって面白い。しばしば心ない者の仕業によって災難に遭い、現時も右手の指の一部を挽がれ金属材で補強された痛ましい姿をしていた。広大な公園内では、裸で草原に寝転がり日光浴を楽しむ男女が三々五々、あるいは暑さにもめげずランニングする若者たちなど、ノルウェー国民の活気で満ち溢れていた。昼下がりの太陽はまだ高い。季節外れの暑気に見舞われ日本から来たばかりの爺婆は疲労の極、早々にホテルに引き上げ白夜の眠りに着く。



怒りん坊 日光浴 いろんな彫像 奥の塔はモノリッテン

きょう 興に乗りレーロス犬友ハイタッチ

ノルウェーの世界遺産(文化遺産)は全部で7件、そのうち今回は2カ所に立寄る。一つはベルゲンのブリッゲン(ハンザ同盟時代ドイツ人街だった地区で、カラフルで奥行き深い木造倉庫が並ぶ)、もう一つはレーロスの鉦山街とその周辺。後者はオスロから北方へ列車で約5時間の山間にある。滞在2時間、大きなバッグをロッカーに預けて市街を散策する。1644~1977年に銅鉦山の町として栄えた。冬季は氷点下52℃にもなるという。古い歴史を刻む教会、その周囲には草の生えた屋根を持つ木造家屋、今なお住居として現役である。ボタ山と廃墟の鉦山跡に往時の産業史を偲びながら遺跡の町を散策していると、イヌ連れの人によく出会う。その一人、黒い大型犬2匹を連れた熟年男性と会話を交わす。2匹とも何々の品評会で入賞したとか自慢話が弾む。それだけでは収まらず親父も親族もホンダの車に乗っているとかが親日家ファミリーの話に発展する。というのも私もホンダ車だと火に油を注いだからか。また家内のスマホの愛犬写真を見せるや、お互い犬飼族のよしみ、一層ハイテンションになる。時間を気にしながら最後はハイタッチで別れる。まだ観光地としては未開発、交通の不便さもあって観光客は少なく静かな田舎町に癒される。(次号に続く)



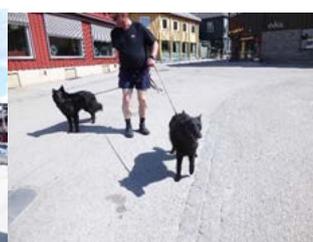
レーロスの街並み



廃坑跡



鉦山街の木造草生え住宅



レーロス愛犬家

<事務局注>ご寄稿への感想、意見、感動などございましたら、下記サイトのコメントボタンよりご記入いただければ幸いです。

<https://ictov.jimdo.com/home/海外便り/>

第 40 回海外情報談話会模様

事務局

第 40 回海外情報談話会が 2019 年 7 月 24 日(水)15 時～17 時、(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室において開催された。講師は大野 邦夫様(株式会社モナビ IT コンサルティング研究部門長、元ドコモ・システムズテクニカルセンター主席技師)、演題は「女性起業家による被災地復興への挑戦」であった。本題に入る前のご略歴説明の段階で、NTT 社員としては奇異なご略歴に質問が相次ぎ、予定時間にハラハラしつつも活発で有意義な談話会となった。



以下にいくつかの話題を列挙する。

- ・ NTT 通信研究所でクロスバ交換機の接点消耗対策、DIPS 端末、リスプマシン ELIS 開発、米国 Interleaf との JV 設立検討などを担当し、その後、ジャストシステムで xfy、職業能力開発総合大学校でジョブカードやエピソード履歴書などを提案した。職業大では、「高度技術者就業支援と技能伝承研究会」を立ち上げて、リタイア後のハイスキル人材の再雇用の可能性を議論検討した。
- ・ 米国 Interleaf との JV 設立はうまく進まなかったが、先方 CEO との関係強化のため、カウアイ島で魚釣りをし、S 部長はキハダマグロを釣りあげた。
- ・ 職業大から福島高専に転籍された西口先生が「被災地における中高年女性起業家の育成」というテーマで科研費を申請され、その手伝いをした。
- ・ エピソード履歴書をさらに展開し、マトリックス履歴書を思いついた。マトリックス履歴書は、一般的な履歴書のように、記述される履歴・職歴を上から下へ記述するのではなく、表形式として左上から右下へ記述することにより、期間毎の業務内容の関連をマトリックス的に展開して記述し、相互に関係する内容を把握したり、新たに発見することが可能となるものである。
- ・ 被災地で起業した女性起業家として、フェアトレードのコーヒー豆をネットショップで販売する S さん(いわき市)、学習塾を起業した O さん(いわき市)、スペインタイルを制作・販売する A さん(女川町)について、マトリックス履歴書などを活用して紹介する。
- ・ ハンガリーから来日した女性起業家もおり、福島の酒蔵を支援する Kojimori システム(ワイアレスセンサーシステム)にも関わった。
- ・ ハーバード・ビジネス・スクール(HBS)が今後の社会的な事業のあり方の観点で被災地での起業を研究テーマとして取り上げている。女川にも訪問・調査しており、A さんの事業に対して、利益追求を超えた価値を評価するコメントを述べるとともに、今後のビジネス展開を提案している。従来の財務諸表に依存した市場分析、技術予測に基づく事業モデルとは異質の、長期的・社会貢献的な視点に立ちながら、地域コミュニティを重視しつつ東北地方、国内市場、グローバル市場へと拡大する事業提案を行っている。
- ・ A さんの HBS 提案への反応は、「私どもはできることをできる範囲でする以外のことは考えていません。地域的な拡大やグローバル企業など、とても考えられません」との

ことであり、地道に地域のニーズに応える企業が設立されて存続しても良いのではないかと思う。

・最近話題の SDGs を実現するためには、経営学の教科書に則って競合して勝者を目指すよりも、地域で地の塩のように生きるような、地道な企業を育成・存続させる努力も必要ではないかと、被災地の女性起業家から教えられた。



多数の参加者から、性差による起業の違い、講師のビジネスモデルなど、活発に意見提起され、予定時間を超過するほどであり、真に“談話”会らしい双方向の刺激的なものとなった。

<事務局注> 講演資料は、講師のご厚意により、下記サイトからダウンロードすることができます。 <https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/>

お知らせ

第 41 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

ICT 海外ボランティア会(ICTOV)による第 41 回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日時：2019 年 9 月 27 日(金) 15 時～17 時
2. 場所：(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7 階
JR 五反田駅から徒歩約 5 分
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師：三上 哲郎様(CASL 代表、元 NTT シンガポール社長)
4. 演題：「まるドメ企業のグローバル化」
5. 参加費：無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
6. 定員(先着順)：JTEC 会場 30 名、Web TV 会議室 100 名
7. 申込方法：参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。なお、Web TV 会議室への参加ご希望の方はその旨ご記載ください。
<連絡先> ICTOV 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp

☆NTT 民営化時、NTT グローバルビジネスのゼロからの立ち上げに参画し、その後、NTT アメリカ、NTT シンガポール、さらには今日に至るまで経験したことなどについて、初心者にもわかりやすく、随時質問できる雰囲気の中で、気軽に楽しく談話しながら、学び、考える機会です。

(注) Web TV 会議室への参加方法は次のとおりです。

- ① 初回の方は海外情報談話会当日までに、次のサイトで「ミーティング用 Zoom クライアント」(サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。それ以上の操作(ID 入力等)は不要であり、当日の②の案内メールをお待ちください。なお、Zoom はクラウドベースの Web TV 会議室システムであり、パソコン(カメラ・マイク付)、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。

<https://zoom.us/download>

- ② 海外情報談話会当日、Web TV 会議室の案内メールが開始 5 分前までに届くので、メールで指定された Web TV 会議室サイトをクリックし、入室する。



編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 87 号を発行することができました。今回は新たに「千里の道も一歩から—トンガ王国防災 ICT システム構築までの道のり」のご寄稿などもあり、また「シニア海外協力隊顛末記」シリーズはいったん終了する一方、「ノルウェー俳柳(俳句川柳)紀行」シリーズが開始し、誠にありがとうございます。皆様からのご寄稿をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 空席のため募集中(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)